

互いに学びを深め合う授業の創造

池田 克 則 [鹿児島大学教育学部附属小学校]・藤崎 智 大 [鹿児島大学教育学部附属小学校]
古園 正 樹 [鹿児島大学教育学部附属小学校]

Tuition for deepening learning in each grade

IKEDA Katsunori・FUJISAKI Tomohiro・FURUZONO Masaki

キーワード：複式学級、学年別指導、直接指導、間接指導

1 研究の背景

鹿児島県で、複式学級を有する学校は、小学校全体の約半数近くに及んでいる。この複式学級の形態をみてみると、1学年の児童数が1名ともう一方の学年の児童数が3名といった極小規模の学級もあれば、2年生と4年生といった学年が飛んで構成される変則複式学級もあり、その指導法において苦慮しているという現状がある。しかし、どのような状況であれ異年齢集団の中で学び合い、課題を解決していく能力や態度を培っていかなければならない。

県下の複式学級の指導法に関する研修会等では、学年別指導において「子どもたち同士の学び合いが深まらない」「考えの高まりが見られにくい」等、複式学習指導法についての課題が多くあげられる。それは、複式学級において教師は、2つの学年で異なる内容を同時に指導することになり、授業時間の約半分しか1つの学年につくことができない。そのため、「わたり」や「ずらし」といった複式ならではの指導方法に困難性を感じていることから、子どもたちの学びに結びつかないものになっているからだと考える。

そこで、複式学級で行われる学年別指導において、互いに学びを深め合うことができる授業について研究することが、今後の複式教育の充実に寄与するものと考えられる。

2 研究の方向

学年別指導において「子どもたち同士の学び合いが深まらない」「考えの高まりが見られにくい」要因の一つとして、子どもたち自身に学びを深めるための学び方が身に付いていないことが考えら

れる。

そこで、本校では、表1のような学びを深める「学び方」を設定し、間接指導時においても直接指導時の教師の働きかけやガイドの指示のもとに、互いに学びを深められるようにしてきた。しかし、子どもたちの話し合いの様子を見てみると、子どもたち同士自分の意見を伝えたり聞いたりしているものの、疑問に思ったことや分からなかったところを問い返すことが不十分であった。

よって、本研究では、学びを深める「学び方」の「問い返し方」に着目し、子どもたちが「問い返し方」を身に付け発揮していく方法の研究を進めていくことで、互いに学びを深め合う授業になると考え、以下のようなテーマを設定し、研究を進めることとした。

【表1 学びを深める「学び方」】

学 年	1 学年	2 学年	3 学年	4 学年	5 学年	6 学年
聞き方	相手の知らせたことは何かを考えながら聞く。	相違点や共通点はどこか自分と相手の考えを比較しながら聞く。	相違点や共通点はどこか、相手の考えや考え方と比較しながら聞く。			
伝え方	相手に分かりやすい言葉で伝える。	図や言葉などを活用して伝える。	図や言葉、具体物などを活用したり、例示したりして伝える。			
問い返し方	分からないところを問い返す。	考えの分からないところを問い返す。	考えの分からないところを問い返す。			

互いに学びを深め合う授業の創造

3 互いに学びを深め合う授業とは

互いに学びを深め合う授業とは、子どもたちが主体的に学習を進め、互いの考えを交流する話し合いが活性化し、考えを高めていくことのできる授業のことである。

互いの考えについて話し合いを活性化させるためには、子どもたちが他者の考えを聞き、他者がど

【表2 問い返し方】

問い返し方	問い返すよさ
理由を問い返す	他者の考えの根拠を理解することにつながる。
要約して問い返す	他者の考えの大事なことや中心を理解することにつながる。
置き換えて問い返す	自分の経験や既習事項を想起してとらえなおすことで、他者の考えを理解することにつながる。

【表3 発達段階に応じた「問い返し方」(黒：重点的に指導する学年)】

問い返し方	1年	2年	3年	4年	5年	6年
なぜ、そう思ったの。 (理由)						
言いたいことは、つまり〇〇ということなの。 (要約)						
例えば、〇〇もそうなの。 (置換)						

のような道筋でその考えに至ったのかを説明できるくらい、他者の考えを深く理解しておくことが前提となる。そのためには、相手の考えを尋ねたり確認したりする「問い返し方」を子どもたちが身に付けておかなければならない。そこで教師は、「問い返し方」を発揮できるような働きかけや場の工夫を行い、「問い返し方」の価値を実感させていく必要がある。

このことにより、子どもたちは学び合いにおいて「問い返し方」を発揮し、他者の考えを深く理解しながら互いの考えを比較・関係付け、自分の考えを高めていくことができると考える。

4 互いの学びを深めめさせる指導の具体化

(1) 発達の段階に応じた「問い返し方」の設定

「問い返し方」の系統化を図り教師が意識して指導に当たることで、子どもたちは発達の段階に応じた「問い返し方」を身に付けながら、他者の考えを深く理解していくことができると思った。

そこで、これまでの子どもたちの話し合いの様子を分析し、表2のような「問い返し方」を見いだした。これらの「問い返し方」には、以下のよさがあると考えられる。

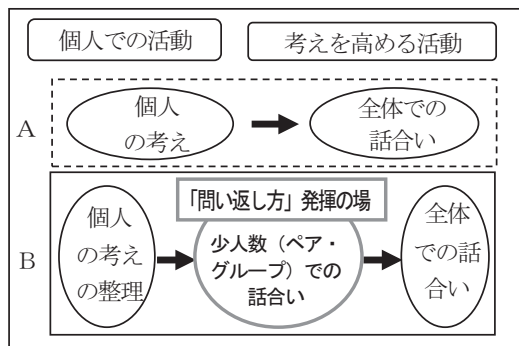
このような「問い返し方」を発達の段階に応じて整理し(表3)、実践の中で検証を図っていくこととした。

(2) 一人一人が「問い返し方」を発揮できる場の設定

これまで本校複式部では、間接指導時における話し合いにおいて図1のAのように個人の考えを小黒板に記述した後、全体で話し合うという進め方を行っていた。しかし、この進め方では、一人一人が「問い返し方」を発揮する時間を確保することが難しかった。

そこで、図1のBのように個人の考えを整理した後、ペアやグループで話し合う時間を設定し、小黒板に記述が済んだ子どもから順に考えを伝え合わせる場を設定する。このことによって、一人一人が「問い返し方」を発揮する機会が増え、他者の考えを深く理解していくことにつながると考える。

(3) 話し合いにおける教師の働きかけの明確化



【図1 ペアやグループで話し合う時間の設定】

【表4 教師の具体的な働きかけ】

教師の働きかけ	具体例
教師による モデル	C： ぼくは、〇〇だと思います。 T： つまり、A君は、〇〇ということが言いたいのかな。 C： そうです。
話し合いの コーディネート	T： A君が言いたいことは、どんなことだと思うかな。 C： A君の言いたいことは、〇〇ということじゃないかな。 T： A君。B君の言うとおりなのかな。 C： そうそう。そういうことが言いたかったの。 T： B君は、よくA君の言いたいことがよく分かったね。

子どもたちの話し合いの様子を見ていると、教師の仕草や話し方を真似してガイドを進めたり、意見を伝え合ったりしている姿がよく見られる。

そこで、「問い返し方」の分からない子どもたちに「問い返し方」を身に付けさせるためには、教師がモデルを示したり、話し合いのファシリテーターとしてコーディネートしたりすることが有効であると考ええる。

このように、意図的な教師の働きかけを行った直後には、価値付けを行っていくことが重要である。そうすることで、問い返しを行った子どもたちの自信につながり、次時以降の学習においても子どもたちが「問い返し方」を発揮しようとする意欲を高めることができると考える。

《価値付け例》

- A君の言いたいことを簡単に言うことができたね。
- 例えを伝えることで、他者の考えがよく分かるようになったね。

(4) 「問い返し方」のよさを実感できる振り返りの充実

「問い返し方」のよさを実感させるためには、学習の終末段階で振り返りを行うことが大切である。

振り返りを行う際には、思考の過程や結果を基に他者とのかかわり方を振り返らせていく。そうすることで、「問い返し方」を発揮しながら自分と他者の考えを比較・関係付け

したことによって自分の考えを高めることができたことに気づき、「問い返し方」のよさを実感することができると思う。

《振り返り例》

- どのようなことを考えて(思考の過程)、どんなことが分かったのかな(思考の結果)。
- 自分の考えが高まったのは、どんなかかわりをしたからかな(他者とのかかわり)

5 互いの学びを深める学年別指導の実際と考察

これまでの研究内容を反映し、社会科で実践を行った。

○ 小単元名

第5学年「わたしたちのくらしと情報」、
第6学年「わたしたちのくらしと政治」

○ 本時の目標

第5学年

報道被害が起きた理由を追究する活動を通して、メディア側の原因と国民側の原因を関連付けて考えることで、メディア側も国民側も互いに責任ある情報の扱い方が大切であることをとらえることができる。

第6学年

新市立病院建設がどのように計画されたのかを追究する活動を通して、市役所や市議会の働きと市民の願いとを関連付けながら考えることで、市が地域の人々の願いを基に、計画を審議、決定していることをとらえることができる。

○ 実際

主な学習活動 (第5学年)	主な学習活動 (第6学年)		
<p>1 本時の追究問題を具体化する。 なぜ、報道被害は起きるのだろうか。</p> <p>2 学習の進め方を話し合う。 ○追究方法 ○資料</p> <p>3 報道被害が起きる理由を追究する。 (1) 一人で追究する。 (2) ペア・グループで交流する。 (3) 追究したことを全体で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">メディア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠が不十分のままに報道してしまったから。 ・報道される人の立場を考えてなかったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">無責任な報道</p> </td> <td style="width: 50%; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;">国民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの情報が全て正しいと思っていたから。 ・自分で考えることなく、情報を信じてしまったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">判断不足</p> </td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">どちらの立場も情報の取り扱いに気を付ける必要がある。</p> </div> <p>4 本時の学習についてまとめる。 メディアが正確でない情報を報道してしまい、国民もメディアからの情報を自分で考えることなく信じてしまったから。</p> <p>5 メディアとどのように関わっていけばよいかを自分の考えを記述する。</p> <p>6 本時の学習の振り返りを行う。</p>	<p style="text-align: center;">メディア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠が不十分のままに報道してしまったから。 ・報道される人の立場を考えてなかったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">無責任な報道</p>	<p style="text-align: center;">国民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの情報が全て正しいと思っていたから。 ・自分で考えることなく、情報を信じてしまったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">判断不足</p>	<p>1 本時の追究問題を確認する。 市立病院建設の計画は、誰が決めわり、どのようにして行われたのだろうか。</p> <p>2 学習の進め方を話し合う。 ○追究方法 ○資料</p> <p>3 新市立病院が計画された様子を追究する。 (1) 一人で追究する。 (2) ペア・グループで交流する。 (3) 追究したことを全体で話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p>4 本時の学習についてまとめる。 市や市議会において、地域の人々の願いを基に、規模や予算等について話し合われ建設された。</p> <p>5 本時の学習の振り返りを行う。</p>
<p style="text-align: center;">メディア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠が不十分のままに報道してしまったから。 ・報道される人の立場を考えてなかったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">無責任な報道</p>	<p style="text-align: center;">国民</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メディアの情報が全て正しいと思っていたから。 ・自分で考えることなく、情報を信じてしまったから。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">判断不足</p>		

(1) ガイド学習の前に考えを交流する場の設定について

第5学年において、報道被害が起きる理由について、自分が考えたことを小黒板に記述し、互いの考えとその理由を吟味し合う活動を設定した。その際、全体での話し合いの前に、早く自分の考えがまとまった子どもから自由に互いの考えを交流する少人数での話し合いの場を設定した。子どもたちは、自由にペアをつくりながら、話し合いの中で以下のようなやりとりが見られた。

(Bさんとのやりとり)

- A : なぜ、メディアが間違った情報を流したからだと考えたの。(理由)
- B : メディアが正確な情報だけを記事にすれば、国民は間違いを信じることはないからだよ。
- A : つまり、メディアが流した間違った情報を、

国民が信じたからってことかな。(要約)

B : そうそう。

(Cさんとのやりとり)

- A : どうして、メディアじゃなくて、国民に責任があるって考えたの。(理由)
- C : だって、国民が簡単に信じなければ被害は起きないでしょ。
- A : でも、書いてあったら、普通はみんな信じるでしょ。
- C : う～ん。確かにそうだけど。
- A : やっぱ、メディアが正確な情報を流さないからだよ。
- (Dさんとのやりとり)
- A : 国民は、簡単に情報を信じてはいけないってことなの。
- D : うん。ちゃんといろんな情報を比較して、自分でその情報が正しいか考えるべきだと思うよ。

A：例えば、1つの新聞だけでなく、他の新聞を読んだり、テレビを見たりして決めるってことなの。(置換)

D：うん。そういうこと。

このように、積極的に「問い返し方」を発揮しながら友達の考えを理解する姿が見られた。また、全体の話し合いでなかなか発言しない子どもも1対1の話し合いのため、臆せず次々に「問い返し方」を発揮し、お互いの考えを理解し合おうとする姿が見られた。

(2) 話し合いにおける教師の働きかけについて

第6学年において、資料から互いに読み取った事実を交流しながら、計画にかかわる機関や人々の相互関係を黒板に図で整理する活動を設定した。その際、教師が「問い返し方」を発揮するモデルとして、「共に問題を追究する一人」というスタンスで、教師自身が子どもの考えを理解しようと問い返しを行うようにした。

また、新病院建設事業の意味を話し合う活動では、他者の考えの理解が曖昧な点を認識させることで、子どもが主体的に「問い返し方」を発揮できるように話し合いのファシリテーターとして働きかけた。

【「問い返し方」を発揮するモデルとしての働きかけ】

C：住民と市には関係があるから、線で結んだ方がいと思うけど、みんなはどう思う。

T：なぜ、住民と市には関係があると考えたのかな。(理由)

C：えっと、検討委員会は住民に説明会を行ったり、住民に意見を出してもらったりしたって、回答書に書いてあるから。

T：例えば、病院に駐車場をたくさんつくってほしいという願いを市に伝えたことかな。(置換)

C：そうです。他にも、病院内を分かりやすくしてほしいと意見しています。

T：なるほど。だから、市と住民につながりがあると考えたんだね。

【「問い返し方」の発揮を促すファシリテーターとしての働きかけ】

T：病院建設を進めることで、どんないいことがあるのかな。

C1：みんなにとってよいくらしになるんだと思う。

T：みんなにとってよいくらしになるっていうAさんの意見、どう思う。

C2：ええっと。駐車場に止めやすいからかな。

C3：Aさん。なぜ、みんなにとってよいくらしになるっていえるのかな。(理由)

6年生に「問い返し方」を発揮するモデルとして働きかけ、5年生の直接指導に教師がわたりをした後の話し合いでは、子どもたち自身で「問い返し方」を発揮しながら互いの考えと根拠を明確にしながらかつ活動を進めていく姿が見られた。

また、「問い返し方」の発揮を促すファシリテーターとして働きかけた後、自分が他者の考えをうまく説明できなかったことで、「なぜ、〇〇と考えたの。」「つまり、〇〇ってこと。」と他者の考えや根拠を言語化しながら「問い返し方」を発揮する姿が見られた。

(3) 「問い返し方」の価値を実感できる振り返りの場の設定について

振り返りでは、学習で深まった認識を問い、その認識が深まった場面を想起させることで、学び合いや「問い返し方」を発揮したよさを実感できるようにした。そのために、授業中に見取った「問い返し方」を発揮した子どもの様子を教師が価値付けるようにした。

(振り返りの様子) ※一部抜粋

T：今日はどんなことが分かったかな。

C：どちらの立場も情報の取り扱いに気を付ける必要があることが分かりました。

T：今日のどの場面でそのことが分かったのかな。

C：Aさんと話し合っているときです。Aさんに聞いてなるほどと思いました。

T：Aさんの考えを理解しようと、「つまり、～とうことなの。」と問い返していたよね。きっと、そのおかげかもね。

上記の価値付けを行った子どもは、その次の時間の他教科の授業において、積極的に「つまり、～とうことなの。」と「問い返し方」を発揮する姿が見られた。

6 成果と課題

(1) 成果

- 発達の段階に応じた「問い返し方」を設定し、子どもが「問い返し方」を発揮している場面で教師が以下のような言葉かけを行ったり、問い返している様子を価値付けたりしたことにより、学び合いの中で、「言いたいことは」「たとえば」「つまり」等の言葉を用いながら問い返し、他者の考えを深く理解する姿が見られた。
- 「問い返し方」を発揮させるためには、問い返す側にとっては自分の考えと比較しながら聞く「聞き方」、問い返された側にとっては他者を納得させることのできる「伝え方」が必要となったため、「学び方」の「聞き方」「伝え方」「問い返し方」それぞれを発揮して話し合い、互いの考えを高め合い、学びを深める姿が見られた。

(2) 課題

- 実践を継続し、その教科等の特性を踏まえた「問い返し方」を発揮する内容設定の要件を模索する必要がある。

付記

本報告は、鹿児島大学教育学部附属小学校平成25～27年度研究紀要で発表した研究内容等に基づき、複式教育において研究をさらに発展させ、その研究成果をまとめたものである。

【主な参考文献】

- 文部科学省「小学校学習指導要領解説 社会編」(東洋館出版 平成20年)